



# わらしべの里通信

社会福祉法人  
わらしべの里

第10号(通巻24号)  
発行日  
2007年7月1日  
発行所  
わらしべの家  
パソ工房

## 「ほのぼのアンケート」実施、結果発表！

わらしべの仲間、カレーライスが  
大好物で、演歌好きです。

新年度から新たに3人の仲間がわらしべに加入し、現在は27名になり、仲間と職員が毎日楽しく一緒に仕事をしながら過ごしています。

今回は新たな試みとして、パソ工房取材班が仲間の皆さんを対象に「普段、わらしべの生活で感じていること」をテーマにしたほのぼのアンケートを平成19年5月7日から平成19年5月11日の5日間で実施。配布数25枚、回答数23枚を得たので集計を公式サイトと連動してご紹介させていただきます。

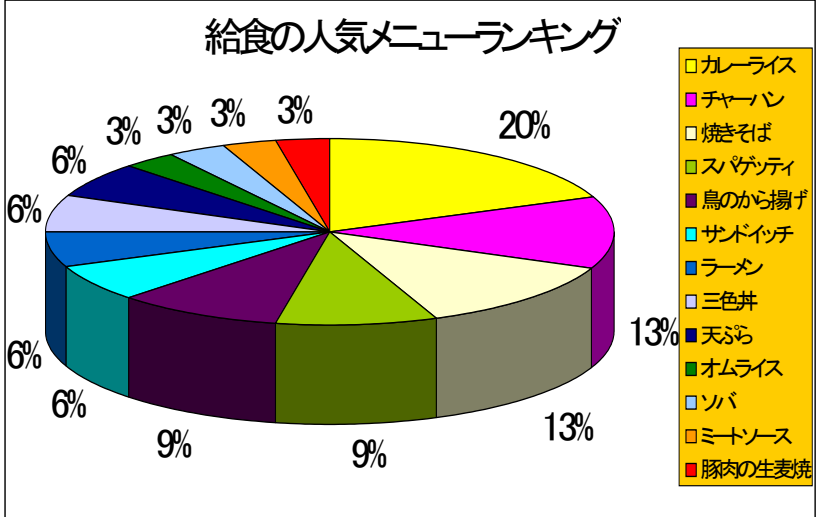
調査内容は、①夢について、②給食について、③カラオケについての3点。  
※パーセントにつきましては、わらしべの家利用者数27名で計算しています。

将来の夢に対して仲間たちからは、「みんなと一緒じゃにわらしべで働きたい」、「看護婦さんになりたい」、「手話通訳士」、「結婚」、「1人で料理ができること」、「私は体が太っているから走って痩せたいなあ。マラソン大会に参加しなくても走って楽しみたい」、「1人暮らしがして

みたい」という意見がありました。その夢から見えるものについて、「今まで周りの人に助けてもらってきたから、1人でやってみたいという思いがあるのでは」と、ある支援員は話していました。

午前中の仕事を終えた後、27名の仲間と職員が一堂に集まって、食事をすするお昼の時間がやってきます。給食で皆さんに好まれているメニューを調査したところ、

ランキングの第1位にカレーライス(20%)、第2位にチャーハン(13%)、第3位焼きそば(13%)と、仲間達は洋食、中華、和食で分かれたり、一品ずつ箸で運ぶ料理よりスプーンやフォークで一度に食べられる料理が好きだという傾向が表れています。



# おとほ

千葉県に障害者支援施設で「就職するなら明朗塾」という名前の福祉施設がある。内藤晃という方が施設長で組織のリーダーである。ここでは障害を持つ方々を「顧客」と呼び、その顧客をどのように満足させることができるかを、施設「経営」の課題としている。(詳しいことはインターネットで検索を)

障害者自立支援法の時代、これまでの関係者の施設「運営」の感覚に、大きな変革が迫られている。ここ、わらしべの里は、一九八〇年(昭和五五年)に財団法人の無認可の障害者福祉作業所として発足している。今では社会福祉法人・定員三〇名の認可施設になっている。

しかし、この時代の流れの中でもう一度、日々の暮らしの中で大きなハンディを持つ状態にある方々の社会的・人間的な拠りどころとなる支援・福祉サービスを、そして「施設経営の原点」を考えていきたい。

社会福祉法人わらしべの里  
常務理事 金坂直仁

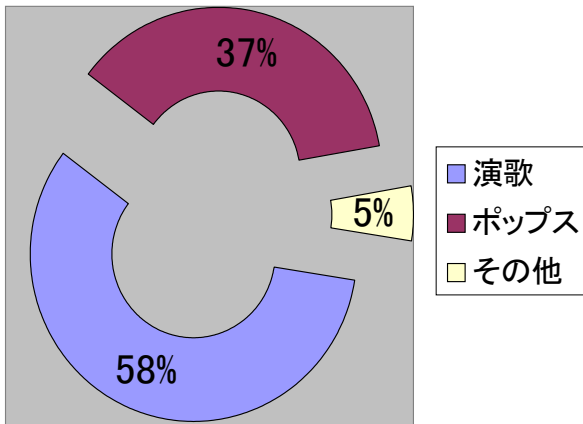


第1位に選ばれたカレーライス。カレーライスの魅力や美味しい食べ方を聞いてみると、仲間たちは「人参とジャガイモが入っているから」、「甘口が好きなので、週に1〜2回も食べている」、「食パンをちぎって、カレーをかけて食べる」と、伝授してくれました。

楽しいお昼の後は、仲間4・5名ずつ日替わりで楽しいカラオケタイムが、待っています。通信カラオケとレーザーカラオケで、もっとも歌われるジャンルを調査したところ、演歌(58%)、ポップス(37%)と、わらしべの家では演歌系の曲が人気という傾向が表れ、仲間たちは、その理由を「歌いやすいから」、「うまくなりたいたいから」、「好きだから」と話していました。

(パソ工房取材班)

わらしべで最も歌われているカラオケ・ジャンルは？



カラオケが、わらしべにやってきましたこの話

今、わらしべの家の第1作業所の食堂・ホールに幅96センチ、高さ73センチの大きな映像モニターがある。テレビも映るけど、もっぱら昼食後の30分は、わらしべの家の利用者のカラオケ専用に使われている。そのカラオケは有線電話でカラオケ会社に結ばれていて、新曲から古いものまでない曲はないと言われている。

これが設置されたのは、平成6年3月17日である。



このころの利用者は10人そこそこであった。それでも1人ひとは音楽好きで、本格的な装置で大きな反響とエコーにあふれたカラオケは、最大の楽しみのものであった。1人の人間として、楽しいひとときが保障されている場面があるというところは、社会福祉の意味のあるとろくみである、私は感じていたのである。当時はまだ、無認可の障害者福祉作業所の時代であった。

知的障害者通所授産施設 わらしべの家  
施設長 金坂直仁

カラー印刷例

社会福祉法人 わらしべの里  
わらしべの家 パソ工房  
販売課長  
**金坂チツ**



〒328-0011  
栃木県栃木市大宮町2708-3  
TEL・FAX 0282-27-1627  
FAX 0282-27-1675  
E-mail warasi-nk@cc9.ne.jp

モノクロ印刷例

社会福祉法人 わらしべの里  
わらしべの家 パソ工房

販売課長 **金坂チツ**

〒328-0011 栃木市大宮町2708-3  
TEL・FAX 0282-27-1627・0282-27-1675  
E-mail warasi-nk@cc9.ne.jp

名刺印刷料金表(1単位100枚)

モノクロ印刷 (片面印刷)	¥2,000
カラー印刷 (片面印刷)	¥2,500
モノクロ印刷 (両面印刷)	¥2,400
カラー印刷 (両面印刷)	¥3,000
※画像送込・加工作业 (1単位)	¥500

※名刺がお客様のお手元  
に届くまで、約一週間のお時間をいただきます。

私たちは、パソコンを使い仕事をする事によって、1人の社会人として「社会参加」と「自己実現」を目指しています。

そして、わらしべの家みんなの考えや視点を十分に盛り込んだ製品づくりと、お客様が「安心と満足」をもてる製品づくりを自分たちで創っていきたくです。

そして……、就職したけれど、まだ、名刺を作っていない新社会人の方、そろそろ名刺がなくなりそうだ……なんていう方、この機会にぜひ、名刺はいかがですか？

パソ工房ニュース

全員が深い絆で結ばれた春の一日



桜に見守られながら、野球を楽しむ仲間たち。

4月4日(水)午後、毎年恒例の「お花見会」が市内でも桜の名所である「永野川河川敷緑地公園」で行われた。

お花見会当日は仲間たちの日頃の行いが良かったせい

いか!?ほんのり肌を感じる風は冷たかったけど、ちようどよいお花見日和になった。

晴れ時々曇り空の下、9分咲きの桜の花たちに囲まれ、仲間たちはその足元で「お菓子」を食べたり、携帯電話のカメラで、記念撮影したりとのんびり過ごし、シートの上も笑顔が満開!

しかし「花よの団子」とはこのこと、お菓子を食べた後は、野球やサッカー、「だるまさん転んだ」をしたり、散歩をしたりなど、まるで冬眠から目覚めたかのように花より遊びに夢中になりレクリエーションに没頭していた。

今年の花見で特に盛り上がったのは、「だるまさん転んだ」。鬼役の仲間が、「だるま・さ・ん・が、こ・ろ・ん・だ」と呪文を唱えている間に、ほかの仲間や支援員さんが少しずつ動く。動いた幅を鬼に見破られ、次々に手を握られ、長蛇の列になった。ただ、最後に加わった仲間が鬼の呪文に微動もしなかったため、「キッタ」と叫べず手を

握ったままお花見会は終了となった。その光景は、全員が深い絆で結ばれていることを象徴していた。

わらしべの家に戻った仲間は、「花がきれいだったから、楽しかった」、「ゲームができたから、楽しかった」、「野球楽しかった」と口をそろえた。季節の移ろい、四季のある風景のすばらしさを再発見し、絆を実感した春の一日は、こうして過ぎていった。

(混む)

金坂直仁施設長の話

「桜は9分咲きぐらい。青空に映えてとて

5月の連休明けの最初の日曜日、5月13日(母の日)に毎年恒例のゆーあい工房祭りが開催され、わらしべの家の全員で参加しました。今年は社会福祉法人うまぐりの里 ゆーあい工房が創立されて10周年を迎えたこのことです。

創立10周年記念 ゆーあい工房祭り 開催される。

当日は栃木市、近隣市町村から多くの人たちが訪れ、工房名物の手づくりパンに行列を作っていました。「大久保お囃子保存会」の皆さんによる迫力のある和太鼓演奏や「バンド聖紫涙(セシル)」の皆さんによるバンド演奏に耳を傾ける人たち。体験コーナーでは、木工体験(やまさん会)、バルーンアート体験(栃木ジュニアリーダーズ)を楽しんでいる人たちや、思い出話にも花を咲かせている人たちもいました。和太鼓演奏では、保存会の皆さんによ

も美しかった。しかし、河原の土手の桜並木のために川風が冷たかった。夜のニューズで、東京に雪が降ったとのこと、この日の寒さもなるほど…。わらしべの家の利用者全員と職員が、ゆっくり、のんびりでき、楽しいスポーツやゲームが一杯の良いいお花見であった」



満開に近い永野川河川敷緑地公園の桜。

るご好意で、希望者に太鼓をたたかせることができる場面も。わらしべの家の仲間もたたき、「太鼓を叩かせてくれていい体験ができた。僕は、ずーっと前に来日したデンマークの障害者のバンドに影響を受け、ドラムをたたくのが好き。和太鼓はドラムと違った迫力があって、楽しかった」と、話して喜んでいました。正午からは、ゆーあい工房食堂で佐々木金蔵さんによるピアノ演奏が行われ、奏でられるメロディーに行き交う人々は足を止め、日曜日の午後のひとときをゆっくり味わっているようでした。そんな会場でわらしべの家は、さをり織りなどの自主製品販売やIT事業の紹介をして祭りを盛り上げることに協力できました。14時、ゆーあい工房まつりは、これまでの10年間でできた地域との絆を再確認し、閉会しました。

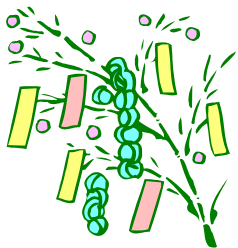




実施月 年間計画内容

- 4月 花見 ※
- 5月 ゴールデンウィークのため、レクリエーションは、行いません。
- 6月 レクリエーション
- 7月七夕
- 8月 レクリエーション
- 9月 レクリエーション
- 10月 日帰り旅行 ※
- 11月 カルフルとちぎ ※
- 12月 クリスマス会 ※
- 1月 新年の抱負を発表する会 (みかんを食べながら)
- 2月 節分豆まき
- 3月 ひな祭り

※の印はわらしべの里の行事。その月に行事がある時は、「仲間の会」のレクリエーションは行いません。



7月7日は七夕。今年も短冊に何を書いてお願いするのかかな……。



成立した仲間の会年間行事については、実施2ヶ月前の会議から話し合い、自分たちでできる事とわらしべの家側に頼む範囲を見極めながら行っていく予定です。

「仲間の会」は利用者が中心になり、毎月第3金曜日午後の「仲間の会議」で翌月のレクリエーションの時間は何をやるかはなしであったり、よりよいわらしべ生活を送るために話し合う会です。会では、新年度に当たって、仲間の皆が意見を活発に発表でき楽しく過ごせるように、年間計画をきめました。



仲間の会年間計画が成立する。

わらしべの里評議員構成

社会福祉法人わらしべの里の運営が適正に行われているかななどを、第三者の方達が客観的に討議し意見を具申するのが評議員会です。わらしべの評議員には次の方々にご就任頂いております。今後ともよろしくお願いいたします。

【委嘱期間 平成19年4月1日～平成21年3月31日】

- 青木浩一郎様 阿部 道夫様
  - 石原 正様 氏家 利男様
  - 小谷 博様 石澤 静江様
  - 小沼 新作様 鈴木由紀子様
  - 関口 延二様 本島 一男様
  - 茂呂久美子様・※若林 章元様
  - 渡邊 全一様 (50音順)
- 【※印の方は委嘱期間 平成19年5月26日～平成21年3月31日】
- (全13名)

編集後記

新年度が始まって3ヶ月が過ぎました。ようやく、わらしべの里通信第10号(通巻24号)が完成し発行ができました。季節はもう梅雨。夏がもう、すぐそこまでやってきているんですね。今年はどうな夏になるのかな。

これから、地球上が温かくなって温暖化になり、今までより夏の期間が長くなるのかな。

さて、今回、特集した「ほのぼのアンケート」は、わらしべの里の利用者は何を感じて、わらしべで生活を送られているかなと思っ利用者の声を元にして取り上げて見ました。

今年度もわらしべの里の最新情報をお伝えしますので「わらしべの里通信」を、どうぞよろしくお願い致します。(範)



社会福祉法人わらしべの里

『わらしべの里通信』第10号(通巻24号)  
発行元 社会福祉法人わらしべの里  
発行責任者 金坂 直仁  
編集者 わらしべの家パソ工房  
〒328-0011 栃木市大宮町2708-3  
電話 0282 - 27 - 1627  
Fax 0282 - 27 - 1675  
E-mail warasi-nk@cc9.ne.jp (事務所)  
http://www.cc9.ne.jp/~warashibenosato/